

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 2 年 1 1 月 2 8 日  
Date of Application:

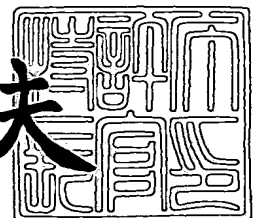
出 願 番 号            実 願 2 0 0 2 - 0 0 7 5 6 8  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 2 - 0 0 7 5 6 8    U ]

出    願    人            船 井 電 機 株 式 会 社  
Applicant(s):

2 0 0 3 年    8 月 2 0 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 実用新案登録願

【整理番号】 RU1756

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H05K 7/00

【考案の名称】 キャビネットのコード取出構造

【請求項の数】 7

【考案者】

【住所又は居所】 大阪府大東市中垣内7丁目7番1号 船井電機株式会社  
内

【氏名】 小川 益男

【考案者】

【住所又は居所】 大阪府大東市中垣内7丁目7番1号 船井電機株式会社  
内

【氏名】 阪本 進一郎

【実用新案登録出願人】

【識別番号】 000201113

【氏名又は名称】 船井電機株式会社

【代表者】 船井 哲良

【納付年分】 第1年分から第3年分

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008442

【納付金額】 51,500円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【考案の名称】 キャビネットのコード取出構造

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 磁気テープ装置一体型テレビジョン受像機や単独型テレビジョン受像機のフロントキャビネット及びリアキャビネットが難燃性合成樹脂により成形され、前記リアキャビネットの後部にコード取出口が貫設され、前記両キャビネット内に配置されるコード付きシャーシの下面後部に金属板がビス止めされており、前記シャーシをリアキャビネット内に挿入してコードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをリアキャビネットの底板部上に配置することにより前記金属板でコード取出口を塞ぐようにしたキャビネットのコード取出構造において、前記金属板に代えて開閉蓋を用い、該開閉蓋が、リアキャビネットの底板部に薄肉状ヒンジ部を介して開閉可能に一体形成した蓋本体と、該蓋本体の先端部から直角に立ち上がる補助板とにより形成され、該補助板を部分的に切欠いてコードを通すためのコード挿通部が形成され、前記開閉蓋の先端部に摘まり部が一体突設され、前記補助板のシャーシ対向面に凸部が突設されると共に、該凸部に中央貫通孔が貫設され、その凸部に対向してシャーシの後面に凹部が形成されると共に、該凹部の中央を通してシャーシにねじ孔が形成され、前記凸部の開閉方向に沿う縦幅が凹部の縦幅とほぼ同一に設定されると共に、該凸部の開閉方向とは直交する方向に沿う横幅が凹部の横幅よりも若干小さく設定されており、前記摘まり部を把持して開閉蓋を開動させ、シャーシをリアキャビネット内に挿入してコードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをリアキャビネットの底板部上に配置した状態で開閉蓋を閉動させてコード取出口を閉鎖することにより、凸部を凹部に嵌入させ、ビスを凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔にねじ込むことにより、開閉蓋をシャーシに固着するようにしたことを特徴とするキャビネットのコード取出構造。

【請求項2】 難燃性合成樹脂により成形されたキャビネットの後部にコード取出口が貫設されており、コード付きシャーシをキャビネット内に挿入して前記コードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをキャビネットの底板部上に配置するようにしたキャビネットのコード取出構造において、前記コード取

付口を塞ぐための開閉蓋が薄肉状ヒンジ部を介してキャビネットに一体形成されており、前記薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させ、シャーシをキャビネット内に挿入してコードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをキャビネットの底板部上に配置した状態で薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させてコード取出口を閉鎖するようにしたことを特徴とするキャビネットのコード取出構造。

【請求項 3】 前記開閉蓋が、キャビネットの底板部に薄肉状ヒンジ部を介して開閉可能に一体形成した蓋本体と、該蓋本体の先端部から直角に立ち上がる補助板とにより形成され、該補助板を部分的に切欠いてコードを通すためのコード挿通部が形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載のキャビネットのコード取出構造。

【請求項 4】 前記開閉蓋の先端部に摘まり部が一体突設されていることを特徴とする請求項 3 に記載のキャビネットのコード取出構造。

【請求項 5】 前記補助板のシャーシ対向面に凸部が突設されると共に、該凸部に対向してシャーシの後面に凹部が形成されており、開閉蓋を開動させて凸部を凹部に嵌入させるようにしたことを特徴とする請求項 3 または 4 に記載のキャビネットのコード取出構造。

【請求項 6】 前記凸部に中央貫通孔が貫設され、前記凹部の中央を通してシャーシにねじ孔が形成されており、前記凹部に嵌入させた凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔にビスをねじ込むようにしたことを特徴とする請求項 5 に記載のキャビネットのコード取出構造。

【請求項 7】 前記凸部の開閉方向に沿う縦幅が凹部の縦幅とほぼ同一に設定されると共に、該凸部の開閉方向とは直交する方向に沿う横幅が凹部の横幅よりも若干小さく設定されていることを特徴とする請求項 6 に記載のキャビネットのコード取出構造。

【考案の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【考案の属する技術分野】

本考案は、例えば所謂テレビデオと称する磁気テープ装置一体型テレビジョン

受像機や単独型テレビジョン受像機などのキャビネットに形成したコードの取出構造に関する。

#### 【0002】

##### 【従来の技術】

所謂テレビデオと称する磁気テープ装置一体型テレビジョン受像機の一例として図11及び図12に示すものがある。これは、フロントキャビネット1A及びリアキャビネット1Bからなるキャビネット1内の上部にブラウン管2が配置されると共に、該キャビネット1内の下部に磁気テープ装置3とACコード4付きシャーシ5が配置され、前記キャビネット1が高電圧に耐えるように難燃性合成樹脂により成形されると共に、前記シャーシ5が安価な可燃性合成樹脂により成形され、リアキャビネット1Bの後部にコード取出口6が貫設されている。

#### 【0003】

組立手順を説明すると、図13(a)に示すように、ACコード4を取扱し易くするために結束具7により結束した状態で、シャーシ5をリアキャビネット1B内に挿入することにより、同図(b)に示すように、ACコード4をコード取出口6から外部に引き出してシャーシ5をリアキャビネット1Bの底板部1a上に配置する。

#### 【0004】

上記構成によれば、前記コード取出口6を通して可燃性合成樹脂製シャーシ5が外部に露出されているから、防災性に問題があり、UL規格上、コード取出口6を難燃性部材で塞ぐ必要がある。

#### 【0005】

従来、上記問題点を解消するため、特許文献1などにも記載しているように、コード取出口6に対向して難燃性部材である金属板8をビス9でシャーシ5に固着することにより、その金属板8でコード取出口6を塞いでいる。

#### 【0006】

##### 【特許文献1】

実開平5-18068号公報

#### 【0007】

**【考案が解決しようとする課題】**

上記構成では、コード取出口 6 を塞ぐために金属板 8 をビス 9 でシャーシ 5 に固着しており、これでは、その固着作業に手間がかかって面倒であると共に、金属板 8 を用いることにより、部品点数が増加して、製作費が高つく。

**【0008】**

本考案は、上記難点に鑑み、部品点数が少なくコード取出口を確実に閉鎖することができるようにしたキャビネットのコード取出構造を提供することを目的としている。

**【0009】****【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するため、請求項 1 に記載の考案は、磁気テープ装置一体型テレビジョン受像機や単独型テレビジョン受像機のフロントキャビネット及びリアキャビネットが難燃性合成樹脂により成形され、前記リアキャビネットの後部にコード取出口が貫設され、前記両キャビネット内に配置されるコード付きシャーシの下面後部に金属板がビス止めされており、前記シャーシをリアキャビネット内に挿入してコードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをリアキャビネットの底板部上に配置することにより前記金属板でコード取出口を塞ぐようにしたキャビネットのコード取出構造において、前記金属板に代えて開閉蓋を用い、該開閉蓋が、リアキャビネットの底板部に薄肉状ヒンジ部を介して開閉可能に一体形成した蓋本体と、該蓋本体の先端部から直角に立ち上がる補助板とにより形成され、該補助板を部分的に切欠いてコードを通すためのコード挿通部が形成され、前記開閉蓋の先端部に摘まり部が一体突設され、前記補助板のシャーシ対向面に凸部が突設されると共に、該凸部に中央貫通孔が貫設され、その凸部に対向してシャーシの後面に凹部が形成されると共に、該凹部の中央を通してシャーシにねじ孔が形成され、前記凸部の開閉方向に沿う縦幅が凹部の縦幅とほぼ同一に設定されると共に、該凸部の開閉方向とは直交する方向に沿う横幅が凹部の横幅よりも若干小さく設定されており、前記摘まり部を把持して開閉蓋を開動させ、シャーシをリアキャビネット内に挿入してコードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをリアキャビネットの底板部上に配置した状態で開閉蓋を開動

させてコード取出口を閉鎖することにより、凸部を凹部に嵌入させ、ビスを凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔にねじ込むことにより、開閉蓋をシャーシに固着するようにしたことを特徴としている。

#### 【0010】

上記構成は本考案の実施の一形態（図1から図9参照）に対応するものであって、これによれば、コード取出口を塞ぐための開閉蓋が薄肉状ヒンジ部を介してリアキャビネットに一体形成されているから、部品点数が増加せず、従来の金属板によりコード取出口を塞ぐ場合に比べて製作費が安くつく。また、開閉蓋が蓋本体と補助板とにより略L字状に形成されているから、前記補助板に形成したコード挿通部を除いて、その略L字状開閉蓋によりシャーシの下面から後面にかけてのコーナ部を塞ぐことができ、UL規格に合わせて防災性に優れた磁気テープ装置一体型テレビジョン受像機や単独型テレビジョン受像機を提供することができる。

#### 【0011】

前記開閉蓋に一体突設した摘み部を把持して薄肉状ヒンジ部を中心に該開閉蓋を開動させるだけで、コード取出口が開放されるから、そのコード取出口を通してコードを外部に容易に引き出すことができ、また、薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させることにより、該開閉蓋によりコード取出口を簡単に塞ぐことができると共に、その開閉蓋の凸部をシャーシの凹部に嵌入させることにより、コード取出口の閉鎖状態を確実に維持することができる。

#### 【0012】

上記のように開閉蓋を薄肉状ヒンジ部を中心に開閉させるようになっているので、その開閉方向に沿って凸部の中央貫通孔とシャーシのねじ孔との位置関係がずれやすいが、凸部と凹部との開閉方向に沿う縦幅がほぼ同一に設定されているため、該凸部を凹部に嵌入させるだけで、その凸部の中央貫通孔をシャーシのねじ孔にほぼ同心状に一致させることができ、これによって、ビスを凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔に能率良く容易にねじ込むことができる。

#### 【0013】

しかも、凸部の横幅が凹部の横幅よりも小さく設定されており、該凸部と凹部

との間に横幅方向に沿って若干の隙間が生じるので、凸部の縦幅が凹部の縦幅より寸法誤差により若干大きくなったとしても、その凸部を横幅方向にわずかに変形させて凹部内に容易に嵌入させることができる。

#### 【0014】

上記のように凸部の中央貫通孔からシャーシのねじ孔にビスをねじ込むことにより、開閉蓋がシャーシに確実に固着されるから、該開閉蓋に対して例えばユーザが誤って過大な力をかけたとしても、その開放蓋が不測に開放されることがなく、安全性が高い。

#### 【0015】

請求項2に記載の考案は、難燃性合成樹脂により成形されたキャビネットの後部にコード取出口が貫設されており、コード付きシャーシをキャビネット内に挿入して前記コードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをキャビネットの底板部上に配置するようにしたキャビネットのコード取出構造において、前記コード取付口を塞ぐための開閉蓋が薄肉状ヒンジ部を介してキャビネットに一体形成されており、前記薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させ、シャーシをキャビネット内に挿入してコードをコード取出口から外部に引き出し、シャーシをキャビネットの底板部上に配置した状態で薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させてコード取出口を閉鎖するようにしたことを特徴としている。

#### 【0016】

上記構成によれば、コード取出口を塞ぐための開閉蓋が薄肉状ヒンジ部を介してキャビネットに一体形成されているから、部品点数が増加せず、従来の金属板によりコード取出口を塞ぐ場合に比べて製作費が安くつく。また、薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させるだけで、コード取出口が開放されるから、そのコード取出口を通してコードを外部に容易に引き出すことができると共に、薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させるだけで、UL規格に合わせてコード取出口を簡単に塞ぐことができる。

#### 【0017】

請求項3に記載の考案は、請求項2に記載の考案において、前記開閉蓋が、キャビネットの底板部に薄肉状ヒンジ部を介して開閉可能に一体形成した蓋本体と



、該蓋本体の先端部から直角に立ち上がる補助板とにより形成され、該補助板を部分的に切欠いてコードを通すためのコード挿通部が形成されていることを特徴としている。

**【0018】**

上記構成によれば、開閉蓋が蓋本体と補助板とにより略L字状に形成されているから、前記補助板に形成したコード挿通部を除いて、その略L字状開閉蓋によりシャーシの下面から後面にかけてのコーナ部を確実に塞ぐことができる。

**【0019】**

請求項4に記載の考案は、請求項3に記載の考案において、前記開閉蓋の先端部に摘まり部が一体突設されていることを特徴としている。

**【0020】**

上記構成によれば、摘まり部を把持して開閉蓋を容易に開閉操作することができる。

**【0021】**

請求項5に記載の考案は、請求項3または4に記載の考案において、前記補助板のシャーシ対向面に凸部が突設されると共に、該凸部に対向してシャーシの後面に凹部が形成されており、開閉蓋を開動させて凸部を凹部に嵌入させるようにしたことを特徴としている。

**【0022】**

上記構成によれば、開閉蓋の凸部をシャーシの凹部に嵌入させることにより、該開閉蓋によるコード取出口の開鎖状態を確実に維持することができる。

**【0023】**

請求項6に記載の考案は、請求項5に記載の考案において、前記凸部に中央貫通孔が貫設され、前記凹部の中央を通してシャーシにねじ孔が形成されており、前記凹部に嵌入させた凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔にビスをねじ込むようにしたことを特徴としている。

**【0024】**

上記構成によれば、凸部の中央貫通孔からシャーシのねじ孔にビスをねじ込むことにより、開閉蓋がシャーシに確実に固着されるから、該開閉蓋に対して例え

ばユーザが誤って過大な力をかけたとしても、その開放蓋が不測に開放されることがなく、安全性が高い。

#### 【0025】

請求項7に記載の考案は、請求項6に記載の考案において、前記凸部の開閉方向に沿う縦幅が凹部の縦幅とほぼ同一に設定されると共に、該凸部の開閉方向とは直交する方向に沿う横幅が凹部の横幅よりも若干小さく設定されていることを特徴としている。

#### 【0026】

上記構成によれば、開閉蓋を薄肉状ヒンジ部を中心に開閉させるようになっているので、その開閉方向に沿って凸部の中央貫通孔とシャーシのねじ孔との位置関係がずれやすいが、凸部と凹部との開閉方向に沿う縦幅がほぼ同一に設定されているため、該凸部を凹部に嵌入させるだけで、その凸部の中央貫通孔をシャーシのねじ孔にほぼ同心状に一致させることができ、これによって、ビスを凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔に能率良く容易にねじ込むことができる。

#### 【0027】

また、凸部の横幅が凹部の横幅よりも小さく設定されており、該凸部と凹部との間に横幅方向に沿って若干の隙間が生じるので、凸部の縦幅が凹部の縦幅より寸法誤差により若干大きくなったとしても、その凸部を横幅方向にわずかに変形させて凹部内に容易に嵌入させることができる。

#### 【0028】

##### 【考案の実施の形態】

図1及び図2は所謂テレビデオと称する磁気テープ装置一体型テレビジョン受像機におけるキャビネット1のコード取出構造を示すものであって、コード取出口6を塞ぐための開閉蓋11が薄肉状ヒンジ部12を介してリアキャビネット1Bに一体形成されている。上記以外の構成で図11及び図12に示す構成と同一部分に同一符号を付してその説明を省略する。

#### 【0029】

組立手順を説明すると、図3(a)に示すように、薄肉状ヒンジ部12を中心に開閉蓋11を開動aさせ、シャーシ5をリアキャビネット1B内に挿入し、同

図(b)に示すように、ACコード4をコード取出口6から外部に引き出し、シャーシ5をリアキャビネット1Bの底板部1a上に配置した状態で薄肉状ヒンジ部12を中心に開閉蓋11を開動bさせてコード取出口6を閉鎖する。

#### 【0030】

上記構成によれば、開閉蓋11が薄肉状ヒンジ部12を介してリアキャビネット1Bに一体形成されているから、部品点数が増加せず、従来の金属板8(図1参照)によりコード取出口6を塞ぐ場合に比べて製作費が安くつく。また、薄肉状ヒンジ部12を中心に開閉蓋11を開動aさせるだけで、コード取出口6が開放されるから、そのコード取出口6を通してACコード4を外部に容易に引き出すことができると共に、薄肉状ヒンジ部12を中心に開閉蓋11を開動bさせるだけで、コード取出口6を簡単に塞ぐことができる。

#### 【0031】

前記開閉蓋11は、図4から図7に示すように、リアキャビネット1Bの底板部1aに薄肉状ヒンジ部12を介して開閉可能に一体形成した蓋本体11Aと、該蓋本体11Aの先端部から直角に立ち上がる補助板11Bとにより形成され、該補助板11Bを部分的に切欠いてACコード4を通すためのコード挿通部11aが形成されている。

#### 【0032】

上記構成によれば、開閉蓋11が蓋本体11Aと補助板11Bとにより略L字状に形成されているから、補助板11Bに形成したコード挿通部11aを除いて、その略L字状開閉蓋11によりシャーシ5の下面5aから後面5bにかけてのコーナ部を確実に塞ぐことができ、UL規格に合わせて防災性に優れた所謂テレビデオを提供することができる。

#### 【0033】

図5に示すように、開閉蓋11の先端部に摘まり部13が一体突設されており、その摘まり部13を把持して開閉蓋11を容易に開閉操作することができる。

#### 【0034】

図8に示すように、補助板11Bのシャーシ対向面に一体形成した円形突起部14に長円形凸部15が突設されると共に、該凸部15に対向してシャーシ5の

後面 5 b に長円形凹部 1 6 が形成されており、開閉蓋 1 1 を閉動 b させて凸部 1 5 を凹部 1 6 に嵌入させことにより、該開閉蓋 1 1 によるコード取出口 6 の閉鎖状態を確実に維持することができる（図 5 参照）。

#### 【0035】

また、前記凸部 1 5 に中央貫通孔 1 5 a が貫設され、前記凹部 1 6 の中央を通してシャーシ 5 にねじ孔 1 6 a が形成されており、凹部 1 6 に嵌入させた凸部 1 5 の中央貫通孔 1 5 a を通ってシャーシ 5 のねじ孔 1 6 a にビス 1 7 をねじ込むことにより、開閉蓋 1 1 がシャーシ 5 に確実に固着されるから、該開閉蓋 1 1 に対して例えばユーザが誤って過大な力をかけたとしても、その開閉蓋 1 1 が不測に開放されることがなく、安全性が高い。

#### 【0036】

ここで、図 10 (a) 及び (b) に示す比較例のように、凸部 1 5 の開閉方向 a, b に沿う縦幅 H 1 を凹部 1 6 の縦幅 H 2 よりも小さく設定することが一般的に考えられる。この場合、開閉蓋 1 1 が薄肉状ヒンジ部 1 2 を中心に開閉方向 a, b に沿って開閉されるので、同図 (c) に示すように、凸部 1 5 を凹部 1 6 に嵌入させたときに、該凸部 1 5 の中央貫通孔 1 5 a の軸心 O 1 がシャーシ 5 のねじ孔 1 6 a の軸心 O 2 から縦幅 H 1, H 2 の差  $\alpha$  分だけずれやすく、その  $\alpha$  分のずれにより、ビス 9 を中央貫通孔 1 5 a を通ってねじ孔 1 6 a にねじ込むことが困難になり、作業能率が低下する。

#### 【0037】

これに対して、本考案の実施の形態によれば、図 9 (a) 及び (b) に示すように、凸部 1 5 の開閉方向 a, b に沿う縦幅 H 1 が凹部 1 6 の縦幅 H 2 とほぼ同一に設定されているので、同図 (c) に示すように、凸部 1 5 を凹部 1 6 に嵌入させたときに、該凸部 1 5 の中央貫通孔 1 5 a の軸心 O 1 をシャーシ 5 のねじ孔 1 6 a の軸心 O 2 とほぼ同心状に一致させることができ、これによって、ビス 9 を中央貫通孔 1 5 a を通ってねじ孔 1 6 a に能率良く容易にねじ込むことができる。

#### 【0038】

また、凸部 1 5 の開閉方向 a, b とは直交する方向 c, d に沿う横幅 L 1 が凹

部 16 の横幅  $L_2$  よりも若干小さく設定されており、該凸部 15 と凹部 16 との間に横幅  $L_1$ 、 $L_2$  方向に沿って若干の隙間  $\beta$  が生じるので、凸部 15 の縦幅  $H_1$  が凹部 16 の縦幅  $H_2$  よりも寸法誤差により若干大きくなったとしても、その凸部 15 を横幅  $L_1$  方向にわずかに変形させて凹部 16 内に容易に嵌入させることができる。

#### 【0039】

上記実施の形態では、凸部 15 及び凹部 16 のとして、長円形に形成したものを示したが、これに限定されるわけではなく、例えば楕円形や四角形などに形成したものであってもよい。

#### 【0040】

また、所謂テレビデオを例にあげて説明したが、これに限定されるわけではなく、単独型テレビジョン受像機などにも適用される。

#### 【0041】

##### 【考案の効果】

請求項 1 に記載の考案によれば、コード取出口を塞ぐための開閉蓋が薄肉状ヒンジ部を介してリアキャビネットに一体形成されているから、部品点数が増加せず、従来の金属板によりコード取出口を塞ぐ場合に比べて製作費が安くつく。また、開閉蓋が蓋本体と補助板とにより略 L 字状に形成されているから、前記補助板に形成したコード挿通部を除いて、その略 L 字状開閉蓋によりシャーシの下面から後面にかけてのコーナ部を塞ぐことができ、UL 規格に合わせて防災性に優れた磁気テープ装置一体型テレビジョン受像機や単独型テレビジョン受像機を提供することができる。

#### 【0042】

前記開閉蓋に一体突設した摘み部を把持して薄肉状ヒンジ部を中心に該開閉蓋を開動させるだけで、コード取出口が開放されるから、そのコード取出口を通してコードを外部に容易に引き出すことができ、また、薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を閉動させることにより、該開閉蓋によりコード取出口を簡単に塞ぐことができると共に、その開閉蓋の凸部をシャーシの凹部に嵌入させることにより、コード取出口の閉鎖状態を確実に維持することができる。

**【0043】**

上記のように開閉蓋を薄肉状ヒンジ部を中心に開閉させるようになっているので、その開閉方向に沿って凸部の中央貫通孔とシャーシのねじ孔との位置関係がずれやすいが、凸部と凹部との開閉方向に沿う縦幅がほぼ同一に設定されているため、該凸部を凹部に嵌入させるだけで、その凸部の中央貫通孔をシャーシのねじ孔にほぼ同心状に一致させることができ、これによって、ビスを凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔に能率良く容易にねじ込むことができる。

**【0044】**

しかも、凸部の横幅が凹部の横幅よりも小さく設定されており、該凸部と凹部との間に横幅方向に沿って若干の隙間が生じるので、凸部の縦幅が凹部の縦幅より寸法誤差により若干大きくなったとしても、その凸部を横幅方向にわずかに変形させて凹部内に容易に嵌入させることができる。

**【0045】**

上記のように凸部の中央貫通孔からシャーシのねじ孔にビスをねじ込むことにより、開閉蓋がシャーシに確実に固着されるから、該開閉蓋に対して例えばユーザが誤って過大な力をかけたとしても、その開放蓋が不測に開放されることがなく、安全性が高い。

**【0046】**

請求項2に記載の考案によれば、コード取出口を塞ぐための開閉蓋が薄肉状ヒンジ部を介してキャビネットに一体形成されているから、部品点数が増加せず、従来の金属板によりコード取出口を塞ぐ場合に比べて製作費が安くつく。また、薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を開動させるだけで、コード取出口が開放されるから、そのコード取出口を通してコードを外部に容易に引き出すことができると共に、薄肉状ヒンジ部を中心に開閉蓋を閉動させるだけで、UL規格に合わせてコード取出口を簡単に塞ぐことができる。

**【0047】**

請求項3に記載の考案によれば、開閉蓋が蓋本体と補助板とにより略L字状に形成されているから、前記補助板に形成したコード挿通部を除いて、その略L字状開閉蓋によりシャーシの下面から後面にかけてのコーナ部を確実に塞ぐことが

できる。

【0048】

請求項4に記載の考案によれば、摘まり部を把持して開閉蓋を容易に開閉操作することができる。

【0049】

請求項5に記載の考案によれば、開閉蓋の凸部をシャーシの凹部に嵌入させることにより、該開閉蓋によるコード取出口の閉鎖状態を確実に維持することができる。

【0050】

請求項6に記載の考案によれば、凸部の中央貫通孔からシャーシのねじ孔にビスをねじ込むことにより、開閉蓋がシャーシに確実に固着されるから、該開閉蓋に対して例えばユーザが誤って過大な力をかけたとしても、その開放蓋が不測に開放されることがなく、安全性が高い。

【0051】

請求項7に記載の考案によれば、開閉蓋を薄肉状ヒンジ部を中心に開閉させるようになっているので、その開閉方向に沿って凸部の中央貫通孔とシャーシのねじ孔との位置関係がずれやすいが、凸部と凹部との開閉方向に沿う縦幅がほぼ同一に設定されているため、該凸部を凹部に嵌入させるだけで、その凸部の中央貫通孔をシャーシのねじ孔にほぼ同心状に一致させることができ、これによって、ビスを凸部の中央貫通孔を通してシャーシのねじ孔に能率良く容易にねじ込むことができる。

【0052】

また、凸部の横幅が凹部の横幅よりも小さく設定されており、該凸部と凹部との間に横幅方向に沿って若干の隙間が生じるので、凸部の縦幅が凹部の縦幅より寸法誤差により若干大きくなったとしても、その凸部を横幅方向にわずかに変形させて凹部内に容易に嵌入させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施の一形態であるキャビネットのコード取出構造を示す一部切欠き側面図である。

【図2】 同底面図である。

【図3】 (a) 及び (b) は組立手順を示す一部切欠き側面図である。

【図4】 同構造の拡大底面図である。

【図5】 図4のA-A矢視図である。

【図6】 同構造の開閉蓋を閉動させた状態の拡大斜視図である。

【図7】 同構造の開閉蓋を開動させた状態の拡大斜視図である。

【図8】 同構造の分解斜視図である。

【図9】 (a) は同凹部の正面図、(b) は凸部の縦断面図、(c) は凸部を凹部に嵌入させた状態の縦断面図である。

【図10】 (a) は比較例の凹部の正面図、(b) は凸部の縦断面図、(c) は凸部を凹部に嵌入させた状態の縦断面図である。

【図11】 従来例を示す一部切欠き側面図である。

【図12】 同底面図である。

【図13】 (a) 及び (b) は組立手順を示す一部切欠き側面図である。

【符号の説明】

1 B リアキャビネット

4 ACコード

5 シャーシ

5 b シャーシの後面

6 コード取出口

8 金属板

1 1 開閉蓋

1 1 A 蓋本体

1 1 B 補助板

1 1 a コード挿通部

1 2 薄肉状ヒンジ部

1 3 摘み部

1 5 凸部

1 5 a 凸部の中央貫通孔

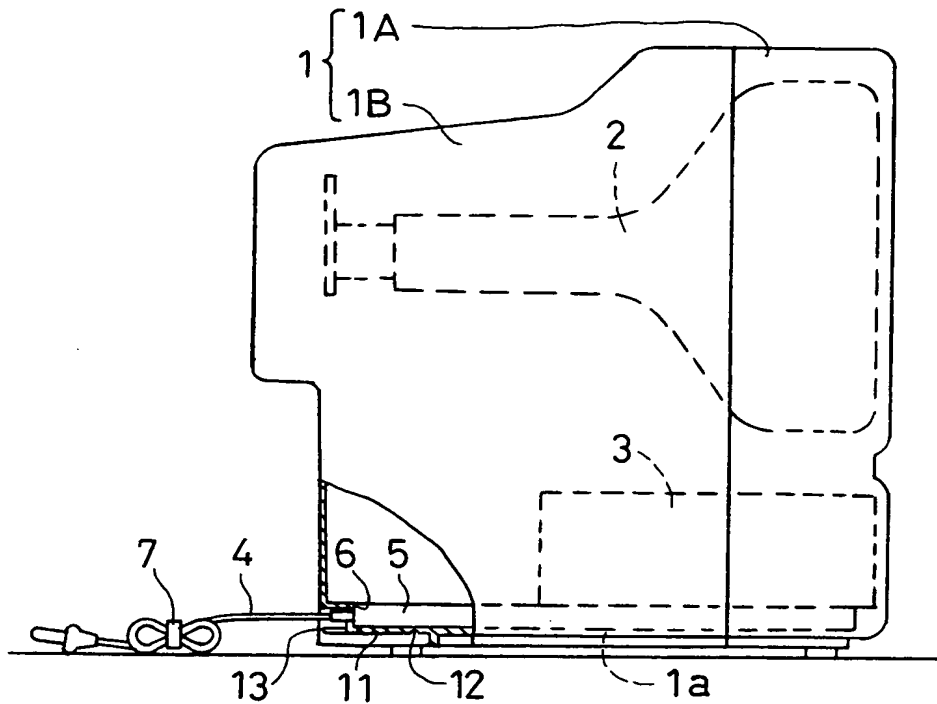


- 1 6 凹部
- 1 6 a シャーシのねじ孔
- H 1 凸部の縦幅
- H 2 凹部の横幅
- L 1 凸部の横幅
- L 2 凹部の横幅
- a 開動
- b 閉動

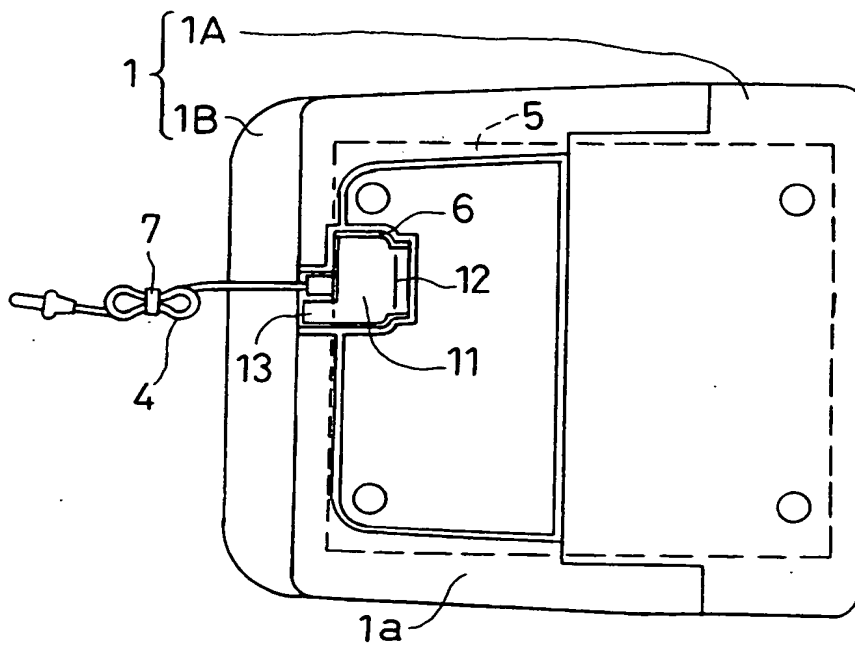
【書類名】

図面

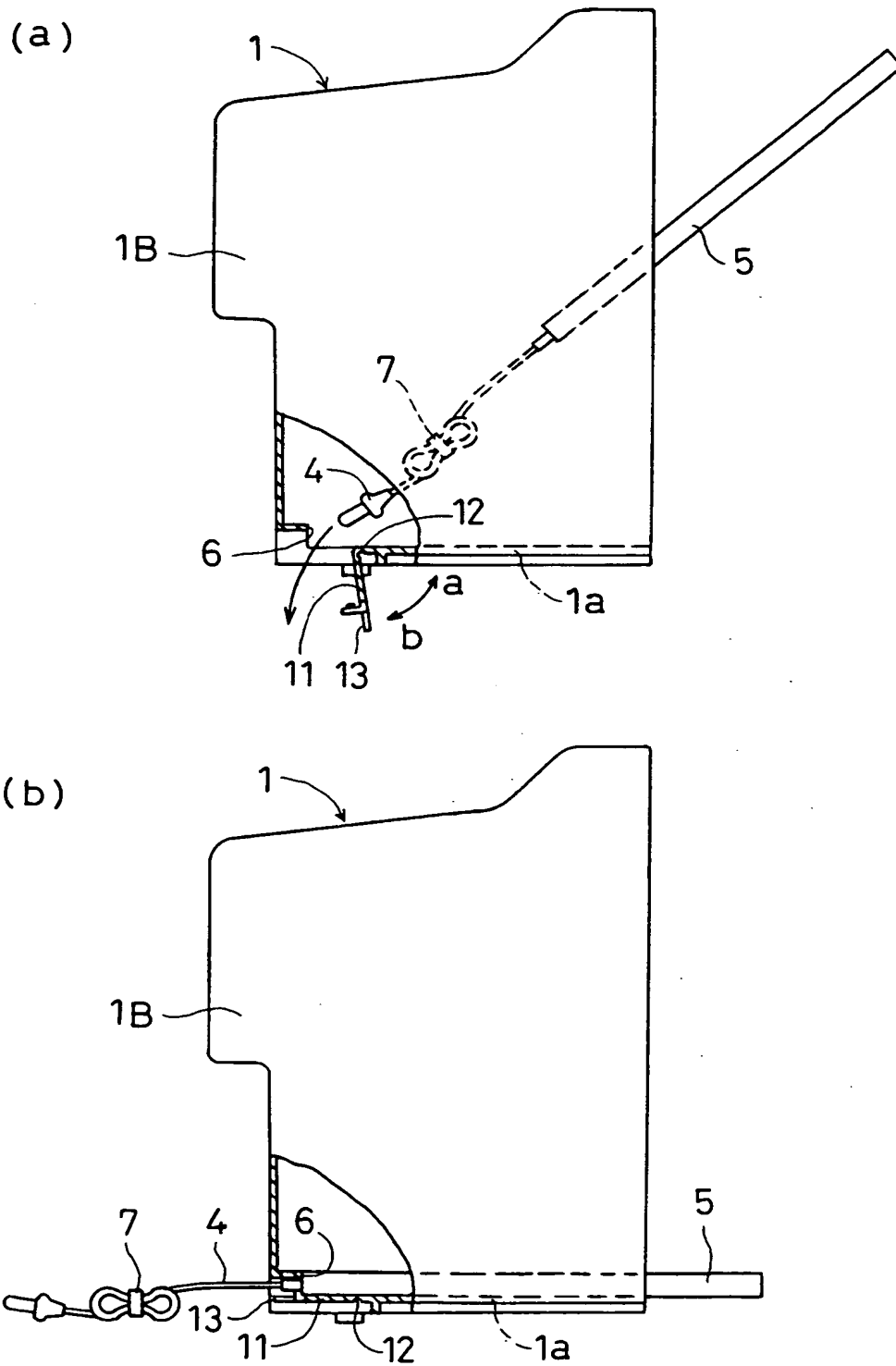
【図 1】



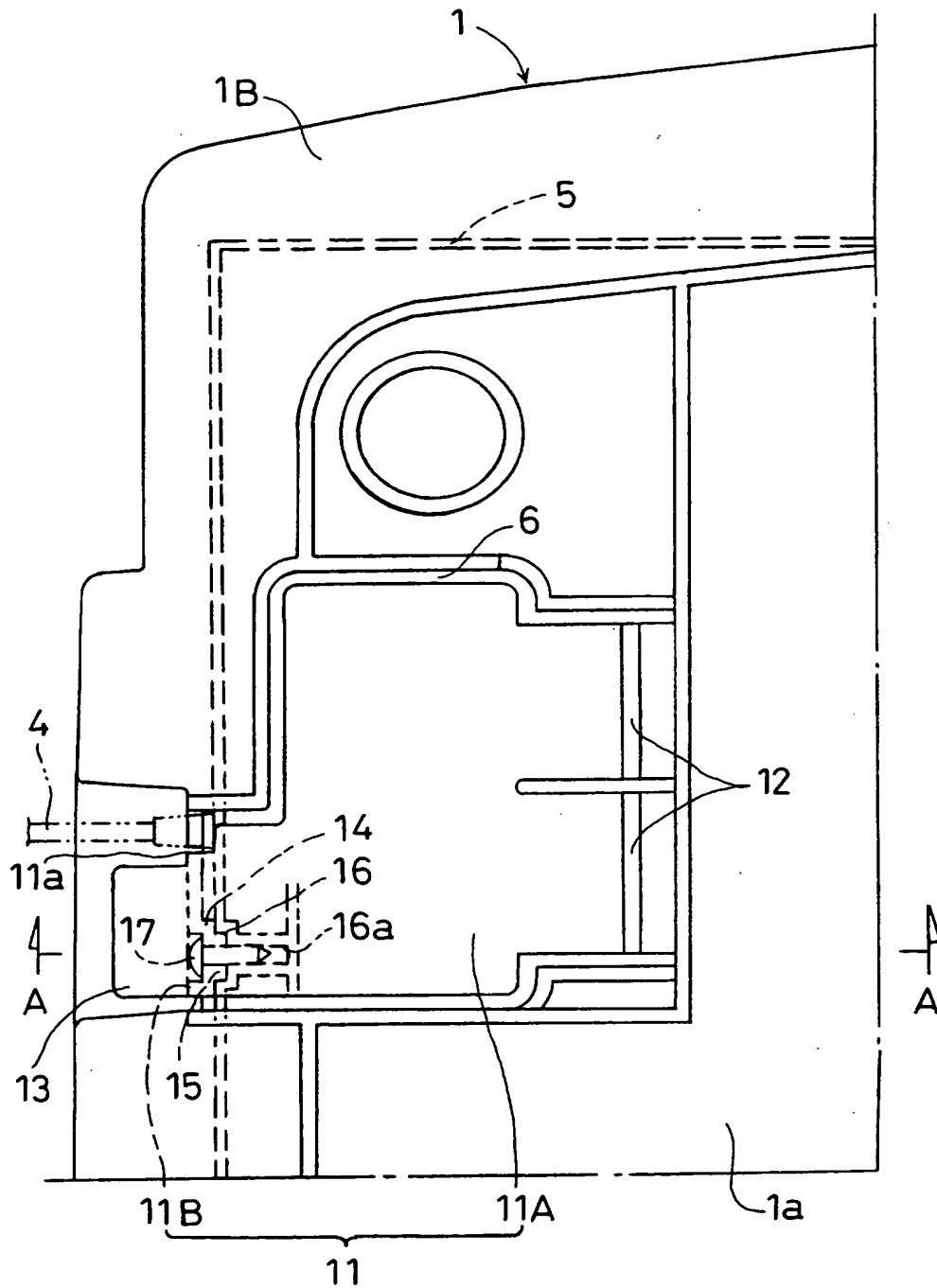
【図 2】



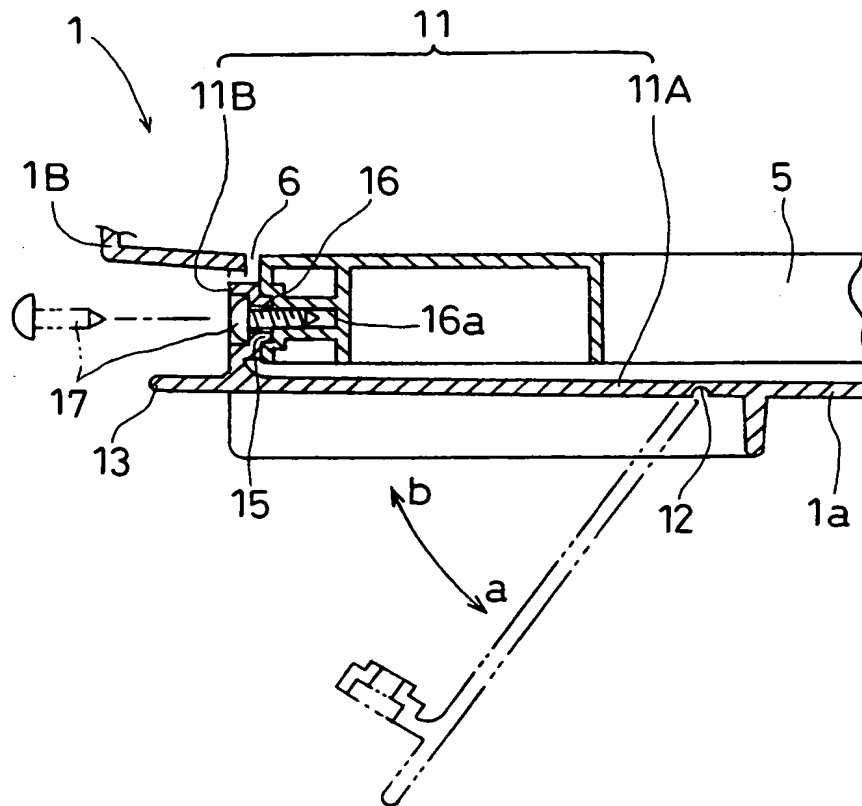
【図 3】



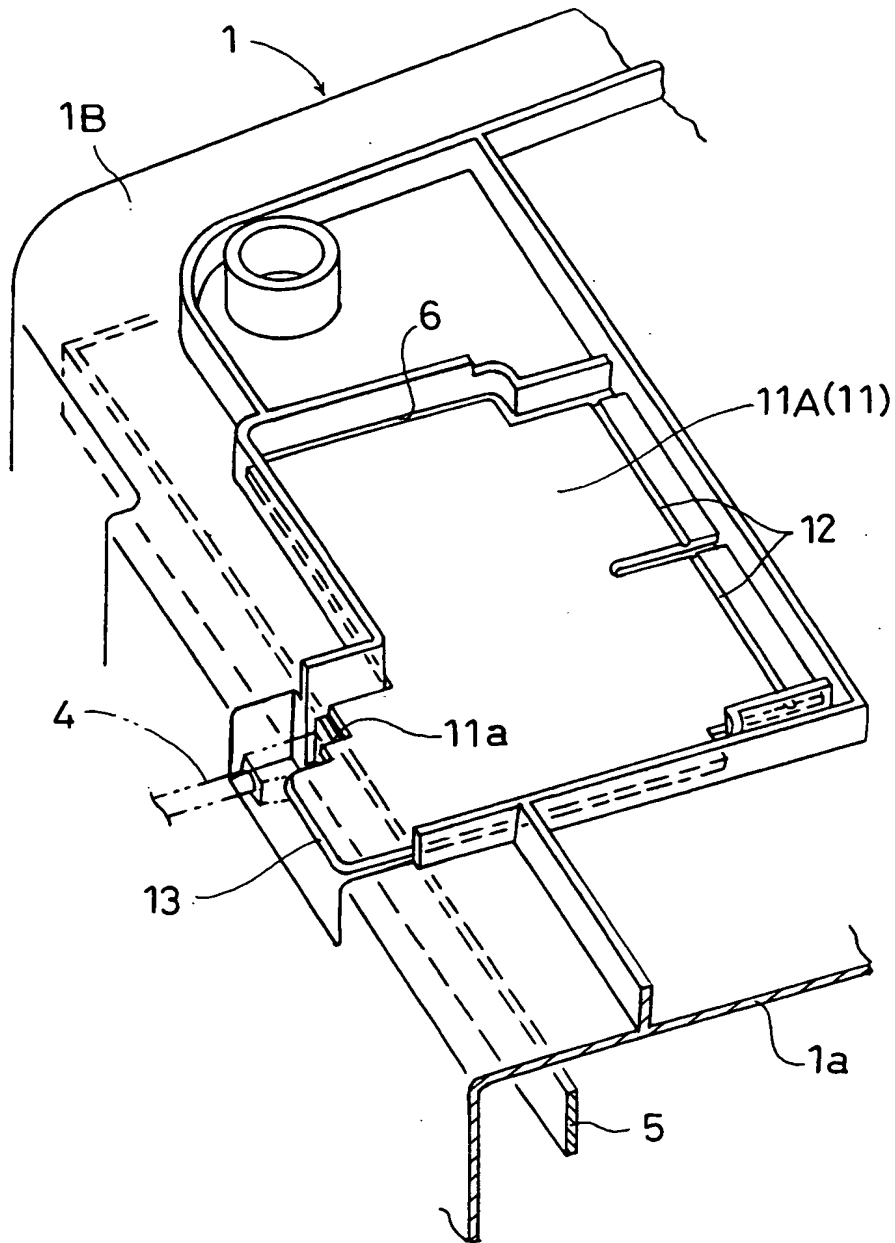
【図4】



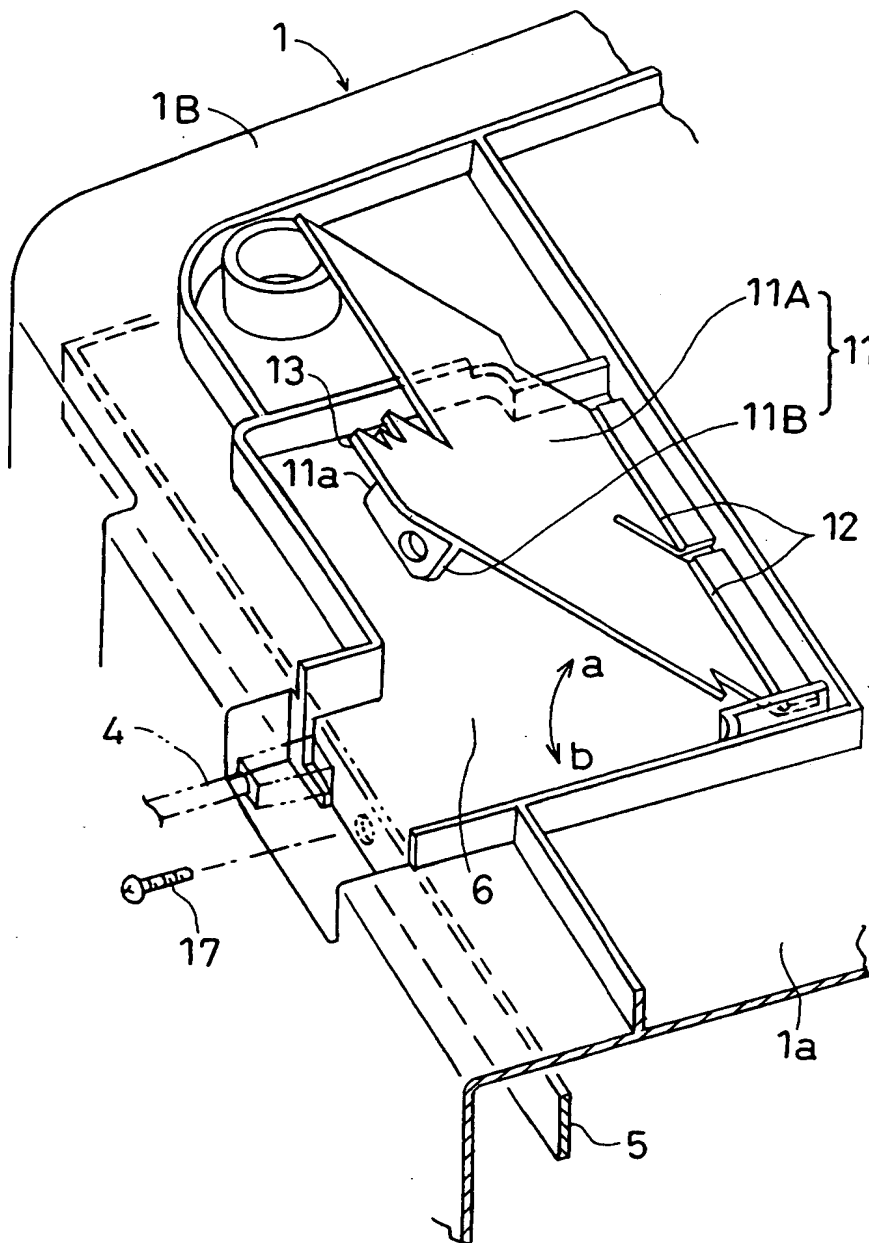
【図 5】



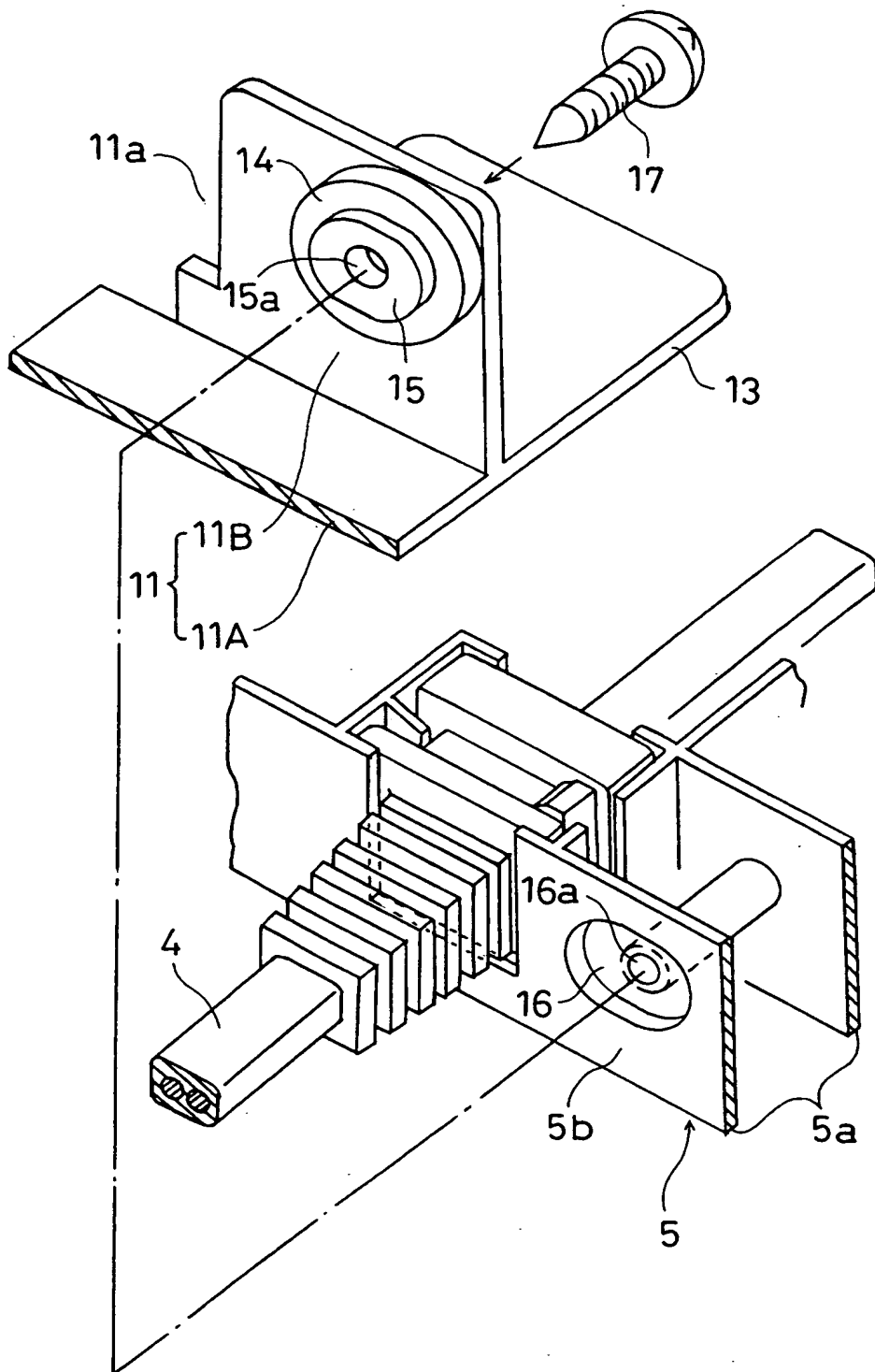
【図 6】



【図7】

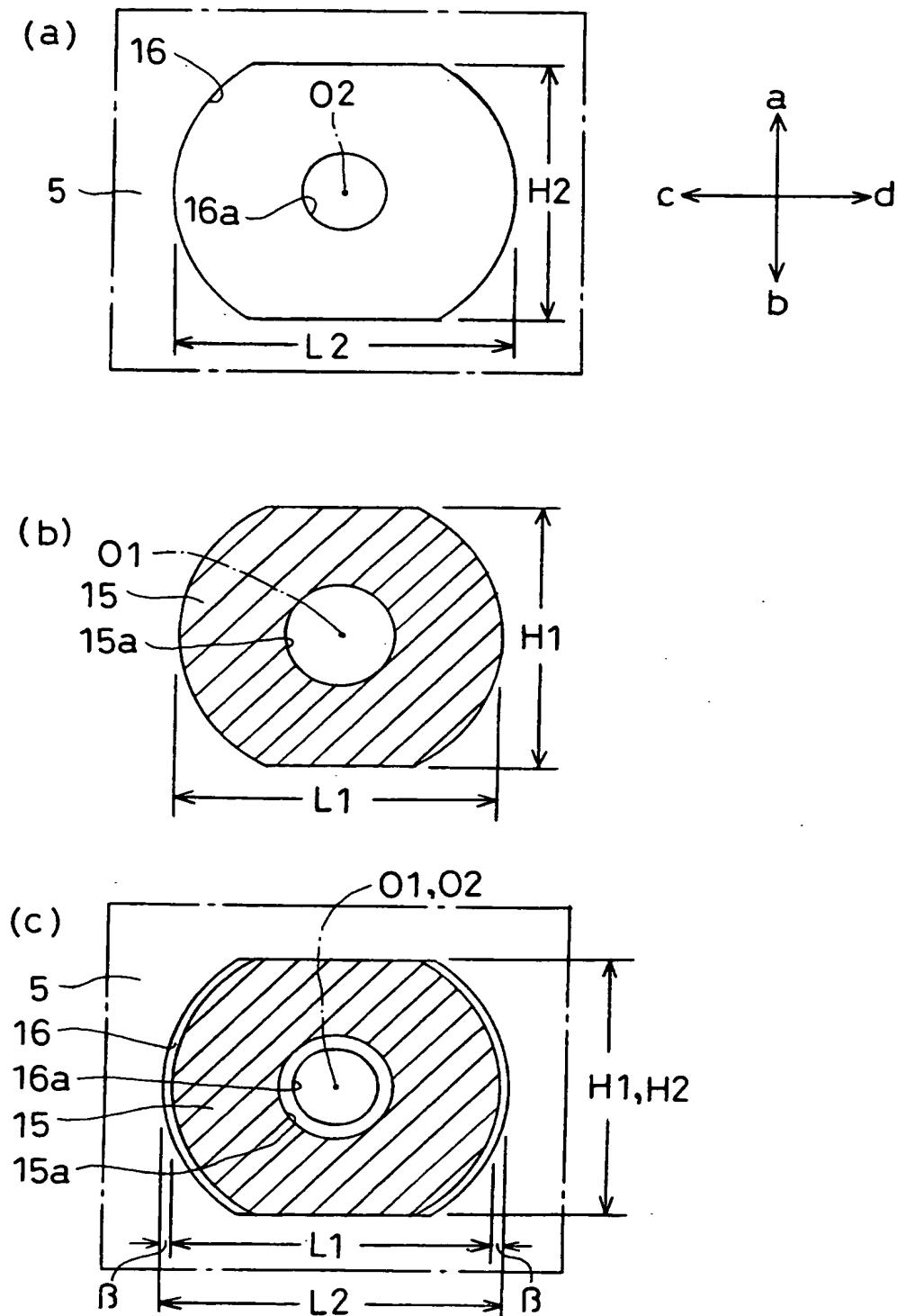


【図8】

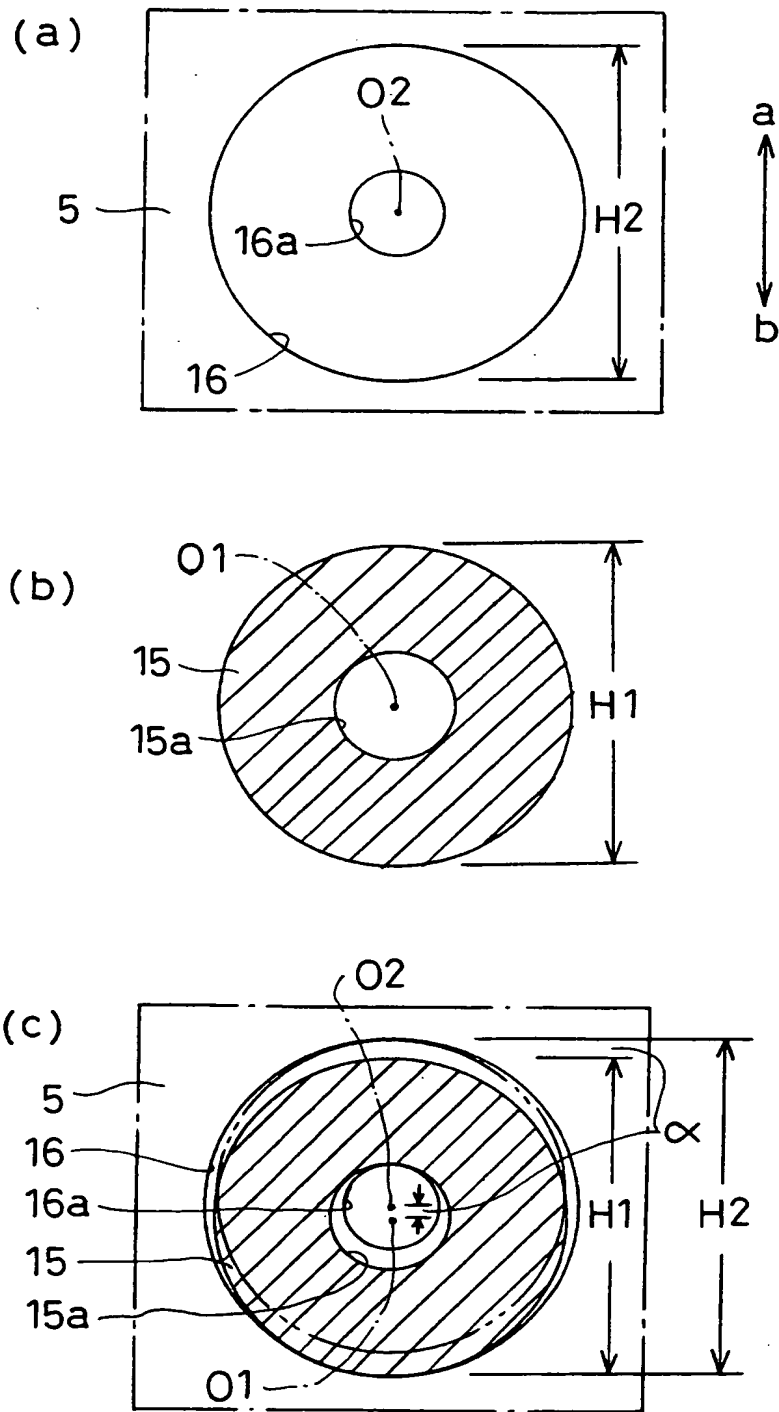




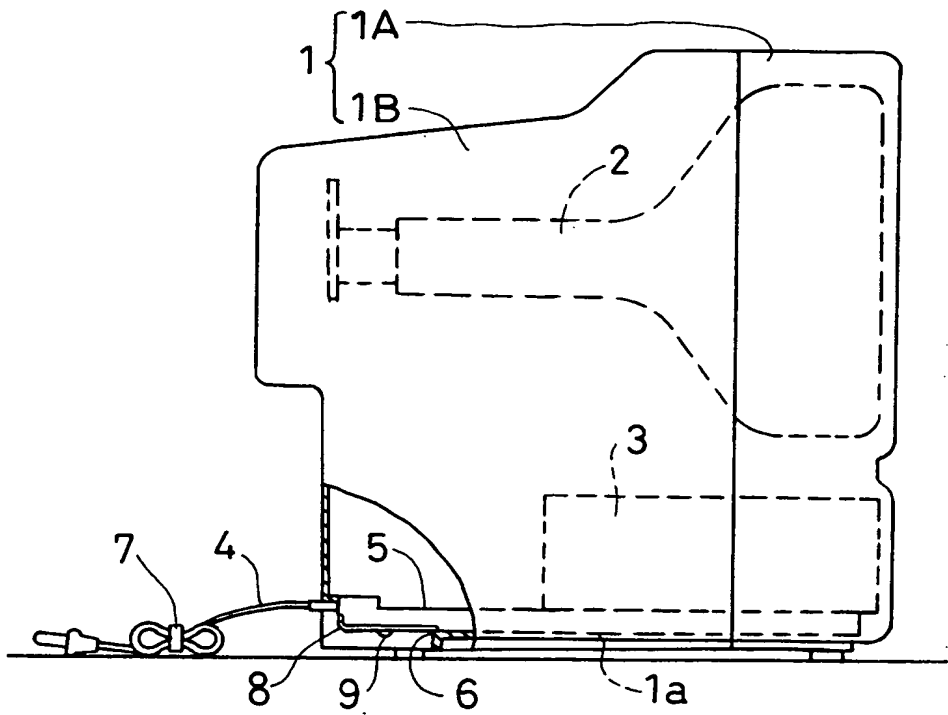
【図 9】



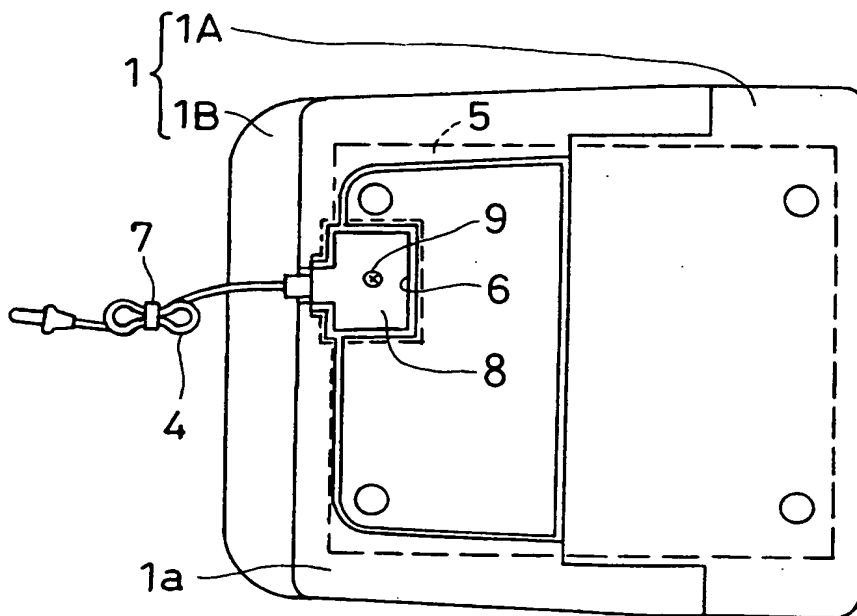
【図 10】



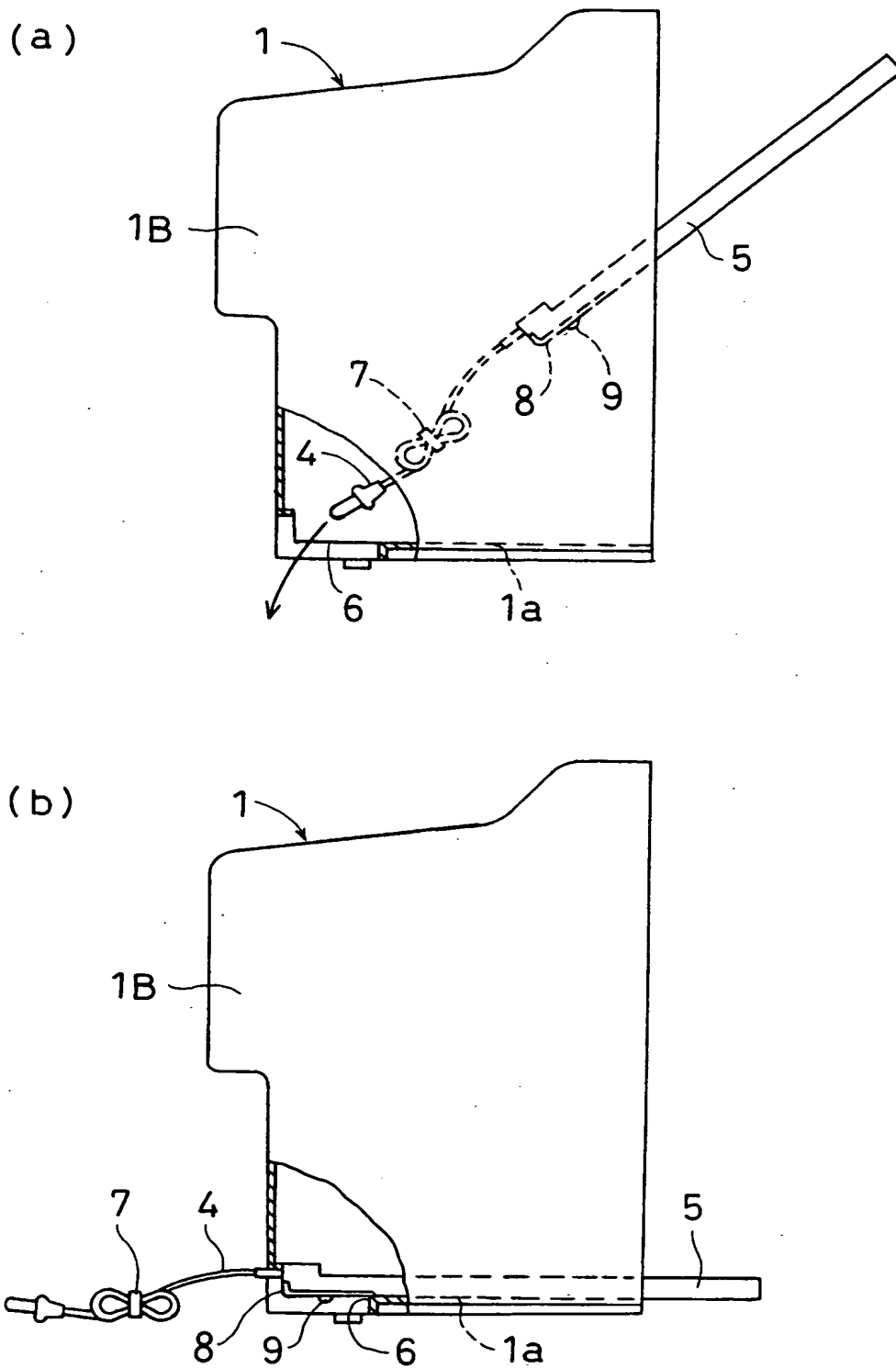
【図11】



【図12】



【図13】



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 部品点数が少なくコード取出口を確実に閉鎖すること。

【構成】 難燃性合成樹脂により成形されたリアキャビネット 1 B の後部にコード取出口 6 が貫設され、該コード取付口 6 を塞ぐための開閉蓋 1 1 が薄肉状ヒンジ部 1 2 を介してリアキャビネット 1 B に一体形成されており、薄肉状ヒンジ部 1 2 を中心に開閉蓋 1 1 を開動 a させ、シャーシ 5 をリアキャビネット 1 B 内に挿入して A C コード 4 をコード取出口 6 から外部に引き出し、シャーシ 5 をリアキャビネット 1 B の底板部 1 a 上に配置した状態で薄肉状ヒンジ部 1 2 を中心に開閉蓋 1 1 を閉動 b させてコード取出口 6 を閉鎖するようにした。

【選択図】 図 3

認定・付加情報

実用新案登録出願の番号	実願 2002-007568
受付番号	50201802930
書類名	実用新案登録願
担当官	第九担当上席 0098
作成日	平成14年12月11日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成14年11月28日

次頁無

実願 2 0 0 2 - 0 0 7 5 6 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 2 0 1 1 1 3 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 9 日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府大東市中垣内 7 丁目 7 番 1 号

氏 名

船井電機株式会社